

会社の健康、社員から。社員の健康、暮らしから。

仕事と生活の バランス

vol.52

公益財団法人兵庫県勤労福祉協会
ひょうご仕事と生活センター



| CONTENTS |

特集 | ひょうご仕事と生活センター主催「キーパーソン養成講座」を紹介します

4 | わが社のWLBな人

6 | 事業報告 7 | 県政トピックス 8 | information



ひょうご仕事と生活センター主催 「キーパーソン養成講座」を紹介します

多様で柔軟な働き方を選択でき、誰もが働きやすい職場環境をつくるため、ワーク・ライフ・バランス（以下 WLB）の取組を加速させる動きが出てきています。WLB を組織全体で進めていくには、さまざまなポジションの社員を巻き込み、一緒に推進していくことが大切ですが、実際には担当者が一人で頑張り、なかなか進まないという話も耳にします。

「キーパーソン養成講座」は、組織全体での WLB の推進に必須となる推進役（キーパーソン）と変革のよりどころとなる行動計画（アクションプラン）作成について考える講座です。今回はその内容を紹介합니다。

■キーパーソン養成講座とは？

ひょうご仕事と生活センターの「キーパーソン養成講座」は、WLB を進めていく上で大切なポイントや社内でのキーパーソンの役割を学んだ上で、自組織の課題や解決策を検討し、効果的に取組を進めるためのアクションプラン（行動計画）を作成、それを職場内でどう生かすかを考える全4回の連続講座です。2012年から毎年開催しており、これまで延べ200企業、241人に受講していただきました。

■キーパーソンとは？

企業・団体において、組織が求める理想の姿（ビジョン）を明らかにしてそれに対する目標を設定し達成するために、社内でも旗振り役となるリーダーのことです。役職などにかかわらず、WLB の取組を通じてより良い職場環境をつくるため、さまざまな立場の人を巻き込みながら、目標達成に導きます。



山登りで例えると、「この山を登ったらどんなすてきな景色が見えるのか」を熱く語って周りの人を山登りに誘う、登山隊のリーダーとなる人です。

■アクションプランとは？

たどり着きたい理想の姿と現状の間にはギャップがあります。このギャップを埋めるための行動（取組）を明示した行動計画が「アクションプラン」です。

この計画を作成するために最初にやることは、「何のために WLB に取り組むのか」「どうなりたいから WLB に取り組むのか」という「目的」を明確にすることです。

「どこに向かいたいのか（目的地）」、「今はどこにいるのか（現状）」、「どう進めるのか（解決策）」、といったことを考え、はっきりと示すことが重要です。



山登りのときには、どんなルートで登るのか、あらかじめ計画を立て、それに基づいて行動します。

何時にどの地点にいるのか、山頂には何時に着くのかを決めると同時に、その計画を一緒に山を登る仲間に周知させ、計画通りに進んでいるか確認することも大切です。

キーパーソン養成講座では、すぐに使えるアクションプラン作りをお手伝いします！

全4回のキーパーソン養成講座、その様子を紹介します。

第1回(7月) キーパーソンの説明/WLBビジョンの考案など



(2019年度の様子)

キーパーソンの役割を講義で確認した後、自組織のビジョンや現状を考えます。参加者同士はこの日に初めて会いますが、グループワークを通じて徐々に打ち解けていきます。※2020年度は第1回のみYouTubeで配信しました

参加者の声

- ・他業種・他企業の方と情報交換でき、新しい気付きもあり、有意義でした。
- ・自社で足りていないことが何か、改めて分かりました。

第2回(8月) 課題の設定/解決策を考える/個別アドバイス



グループワークでは、課題を設定し解決策を考えます。他企業の参加者と意見を交わすことで、自組織の問題をこれまでと違った視点で捉えることができるようになります。ひょうご仕事と生活センターのWLB推進コンサルタントによる個別アドバイスを受けながら、自組織のアクションプランを作り上げていきます。

参加者の声

- ・自分一人では思い付かないことが多くあり、勉強になりました。
- ・順を追って考えることで、これからすべき行動が見えました。

第3回(9月) アクションプラン発表



作成したアクションプランを発表します。発表者はもちろん真剣ですが、聞く側もその会社の現状を想像しながらプレゼンを聞き、感じたことを付箋に記してフィードバックします。たくさん貼られた付箋は、講座を通じてできた「WLB活動の仲間」からのエールであり、アクションプランの実行性を高めるアドバイスにもなっています。

参加者の声

- ・発表する機会があったからこそ、本気で考えることができました。
- ・フィードバックをいただき、考える幅が広がりました。

第4回(2月) フォローアップ



アクションプランの発表から約4カ月後に、取組を振り返り、次の一手を考えます。取組の進み具合は各社各様ですが、「できていること」「できていないこと」を参加者同士で意見交換する中で、新しい気付きを得て、その後のWLBの取組に生かしていきます。



11月
WLBフェスタでの修了証授与式



修了後のアンケートでは、「このプログラムに参加して、ご自身や所属組織で、何か変わった部分がありましたか?」という問いに対し、**参加者の94%**が「変化があった」と回答しました。

2021年度のキーパーソン養成講座は4月下旬に募集開始予定です!

わが社の WLBな人

WORK LIFE BALANCE

ひょうご仕事と生活センターでは、オリジナルキャラクター「WLB7」のテーマに沿ってワーク・ライフ・バランスを進める方々をFacebookで取り上げています。今回は、昨年3月～12月に掲載した10人を紹介します。



最新情報は
こちらから



- | | | |
|------|----------|----------------------------------|
| ペンギン | 子育て | 夫婦共働きで協力しながら子育て。明るいキャラでムードメーカー。 |
| さる | 介護 | 親の介護を行いながら職務に励む。チームがうまく回るように気配り。 |
| くま | 在宅勤務 | テレワークを利用して在宅勤務。やさしい性格でチームの母親的存在。 |
| ライオン | キーパーソン | WLB担当。皆からの信頼も厚いリーダー的存在。 |
| みつばち | 女性活躍 | 毎日、元気に飛び回る。女性社員のリーダーで初の女性役員候補。 |
| ぞう | 再雇用 | 再雇用制度を利用するベテラン。若手社員への技能継承に力を入れる。 |
| カエル | フレックスタイム | フレックスタイムを利用。地元の合唱団に参加し地域活動にも貢献。 |

※投稿日順に掲載しています



コープ住宅株式会社(神戸市)

安部さん

家族の通院に付き添うため、週に2～3回フレックスタイム制度を活用。入社時は必要がなかったため制度の存在を意識していなかったのですが、「この制度が使えなければ仕事との両立は難しかった」と振り返ります。気兼ねなく使えるのは、周囲の理解と"お互いさま"の意識があるからこそ。制度を活用したメリハリのある働き方は、職場全体に広がっています。

(2020年3月)



株式会社PLAST(神戸市)

貝原さん

女性スタッフの声を職場環境の改善に生かすため、女性リーダーの一人に任命されました。「人の数だけWLBの種類があると皆が理解してこそ"お互いさま"の精神も生まれ、より働きやすくなるのではないかと話します。WLBやダイバーシティ、コミュニケーションスキルなどを学び、職場全体での取組に生かしていきたいと前向きな姿勢で日々活躍されています。

(2020年5月)



株式会社エコリング(姫路市)

黒田さん

出社と在宅勤務を組み合わせ、仕事と子育てを両立中。緊急事態宣言中の在宅勤務時は、お子さんがカメラに映り込むなど微笑ましいトラブルも同僚が和やかに受け止めてくれ、お子さんも「会社の人に会えた」とはしゃいでいたそう。子どもに働く姿を見せることができるとともに、学校からの帰宅を家で迎えてあげられるなど、在宅勤務ならではの喜びを感じているようです。

(2020年7月)



株式会社神防社(神戸市)

並里さん

消防設備の施工管理に従事して18年。社の創立から関わり、出産・育休を経て2019年には優秀施工者国土交通大臣顕彰で建設ジュニアマスターに選ばれました。後輩のロールモデルとしても信頼は絶大です。「何ごととも長く続けることに意味がある。現場の環境も整理されてきたので、今後さらに女性が働き続けやすい職場になれば」と女性社員の代表としてますますの活躍を目指します。(2020年8月)





三ツ星ベルト株式会社(神戸市)

米田さん

育休後、会社の配慮で出張の少ない部署に復職しました。家庭では復帰前から夫婦で「家庭内の生産性を上げようキャンペーン」を実施。家計管理ソフトや食洗器の導入により作業効率が上がったのはもちろん、ご主人もできる家事が増え、生産性が向上。「仕組みをつくるのは大変ですが、一旦できるとすごく楽。ストレスなく両立生活を送れています」と笑顔で話します。

〈2020年9月〉



株式会社夢工房(神戸市)

門屋さん

フレックスタイムや有給休暇を併用し、父親の介護と仕事を両立中。「できないことは断ったり妥協したりすることも必要」と話す言葉には、経験者ならではの思いが感じられます。介護を通して、お父さんとの絆も深まったとのこと。同僚からの差し入れなど周囲のサポートにも助けられながら、両立する大変さを周りに感じさせないほど精力的に業務に取り組んでいます。

〈2020年10月〉



但南建設株式会社(朝来市)

岡田さん

新入社員研修やメンター制度の企画・運営を中心となって担う若手社員のリーダー格。新入社員にはメンタルケアを丁寧に行い、活躍をサポートしています。「今後はWLBの実現に向けてさらなる改善を行い、より良い会社にしていきたい」とのこと。青年会議所の委員を務めるなど地域活動にも力を注ぎ、自社はもとより但馬全体を活性化していきたいと意欲を見せます。

〈2020年10月〉



ジィ・アンド・ジィ株式会社(神戸市)

神谷さん

IT事業部のシステムエンジニアは、仕事のスケジュールをプロジェクト単位で自ら作成しています。想定より早く終わりそうな時には1時間単位での早帰り制度「ショート60」を使って、仕事と家庭を両立。これを使うことで家事以外に自分の時間も生まれ、「明日も頑張ろう」と切り替えられるそうです。リフレッシュしながらメリハリのある働き方を実践しています。

〈2020年11月〉



英国屋株式会社(姫路市)

宮垣さん、高橋さん

センターが主催する「キーパーソン養成講座」の自社WLB展開案のプレゼンで、最も共感を得た発表者に選ばれました。「課題を考えることは大変でしたが、他の企業も同様の悩みがあり、悩んでいるのは自分たちだけじゃないと安心しました。設定した課題も間違っていないことが分かり良かったです」と話します。今後は表彰企業を目指し、社内の推進役として活躍が期待されます。

〈2020年12月〉



株式会社ビッグバレーインターナショナル(尼崎市)

瀧寄さん

主な仕事は、倉庫管理システムの開発とプログラミング。コロナ禍で取引先への出向から在宅勤務になり「通勤時間がなくなった分、時間を有効活用できるようになった」と言います。やりにくさを感じたチャットやオンライン会議では伝え方を工夫するようになり、コミュニケーションのスキルが上がったそう。「この働き方でも十分にやれる」と在宅勤務に手応えを感じています。

〈2020年12月〉



ひょうご仕事と生活センター認定・表彰企業学びの会 会議が変わると組織が変わる！ ～オンライン会議のコツもお伝えします！～



ひょうご仕事と生活センターでは、認定・表彰企業を対象に学びの会を開催しています。1月20日、ケンブリッジ・テクノロジー・パートナーズ株式会社ディレクターの榊巻亮氏を講師に招き、効果的な会議の進め方についてのオンラインセミナーを行いました。

【要旨】

私たちは人生の中で、累計8年分もの時間を会議に費やしていると言われていました。

「会議術」と聞くと難しく考えがちですが、もっと基本的な行動を徹底させることが大切です。特に重要な行動は2点。まず、会議の冒頭で、進め方と終了条件を確認することです。参加者全員がどのような状態になればいいのか、全員が理解した上で始めてください。

もう1点は、会議で決まったこと、やるべきことなどは

必ず確認すること。担当者を決め、誰が何をいつまでにやるかなどをメモし、終了時に読み上げて全員で認識を共有するようにしましょう。

コロナ禍で増えたオンライン会議では進行役であるファシリテーターが名指しで話をどんどん振るとともに、参加者も不明な点は遠慮せず質問するべきです。また、リアクションは普段の3倍大きくするのが良いでしょう。

会議の質を上げるコツは三つ。一つ目は、全てをファシリテーター任せにせず、参加者も「隠れファシリテーター」になって、必要事項をうまく質問しながら会議をつくること。二つ目は、決まったことはその場で確認し、全員で同じ価値観を共有すること。三つ目は、組織のリーダーが確認役を指名するなどし、職場のメンバーが迷わないような環境をつくること。これにより「良い会議」が定着し、組織も変わっていくはずですよ。

ひょうご仕事と生活センター外部専門家スキルアップセミナー ニュータイプの時代～これからの働き方～



2月2日、ひょうご仕事と生活センターの外部専門家を対象にしたスキルアップセミナーをオンラインで実施。講師の株式会社ライブニッツ代表の山口周氏に、コロナ禍で変わる働き方や新しい価値観について学びました。

【要旨】

コロナ禍で、世の中は新しい時代へと移りつつあります。少し前までは週5日出社するのが当たり前でしたが、現在はテレワークが導入され週1回、企業によっては月1回の出社でも構わないところもあり、オフィスの近くに住む必要もなくなりました。

企業が成長するための条件も変わってきました。昭和の時代は、身の回りには多数の問題があり、それらの解決がおのずと社の発展につながりました。しかし今ではその多くが解決済みで、これまでにない視点で問題を見

つけてイノベーションを起こさない限り、飛躍的な発展を遂げるのは難しくなっています。

イノベーションを起こすためにはまず、目指すべき姿を描き、現実とのギャップを認識して課題を明らかにすることが必要です。また、権力の格差が小さい組織ほどイノベーションは起こしやすいと言われています。Googleをはじめ「GAFA」の創業者は、平均23歳で起業しました。しかし、日本では若手に力を発揮するチャンスがほとんど与えられていません。若手、ベテランそれぞれに優れた点があるので、組織の中で両者がうまく役割分担することが大切です。

商品開発においても、かつては役に立つ便利な物がもてはやされましたが、現在はたとえ不便でも付加価値があれば高く売れる時代です。正解のない新たな時代、柔軟な発想で適応していただきたいと思います。

明日からできる!テレワーク(在宅勤務等)の始め方

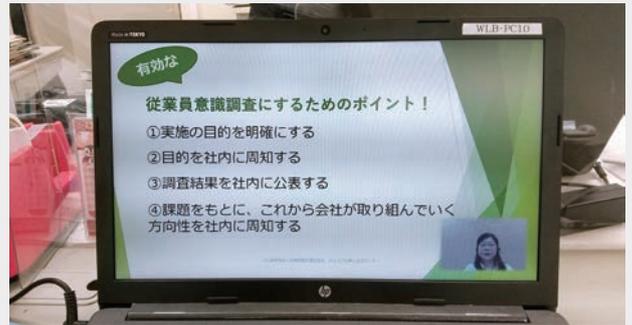
2月18日に但馬地域、19日に丹波地域で初めてとなるセミナーを開催しました。明日から実践できるテレワークについて、社会保険労務士法人NSRテレワークスタイル推進室CWOの武田かおり氏に導入のプロセスや労働時間・費用負担など労務管理のポイントを講演していただきました。また、講演終了後には、兵庫県が推進している「テレワーク兵庫」(自宅のパソコンから職場のパソコンにアクセスして在宅勤務ができるテレワークの基盤)のデモンストレーションを行いました。



講師の自宅と会場をオンラインでつないで講演

やってみよう!従業員意識調査実施ツール活用術

3月1日~15日、ひょうご仕事と生活センターが提供する「従業員意識調査実施ツール」の活用法をYouTubeで配信しました。このツールは基本の調査票項目を自組織に合った形に自由にカスタマイズできるようになっています。セミナーでは架空の企業を例に調査の実施・分析・報告書作成方法を動画で分かりやすく解説するとともに、ワーク・ライフ・バランス推進への具体的な活用方法を紹介。参加者からは「このツールで実施するために準備を進めたい」などの感想が寄せられました。



岡村調査員が有効な調査にするためのポイントを説明

第2弾「がんばるお店・お宿応援事業」のご案内



新型コロナウイルス感染症の影響により売上げが減少している飲食店や宿泊施設が、感染拡大の抑制と事業の安定的な継続の両立を図るために実施するテイクアウト・デリバリーや感染防止の取組を支援します。

- **対象者** 飲食店・宿泊施設を営む中小企業者 ※テイクアウト・デリバリー専門店を営む事業者は除く
- **対象事業** テイクアウト・デリバリーの実施、地元食材を使用した新商品開発、感染防止対策
- **補助対象期間** 4月1日~6月30日
- **申請期間** 4月1日~7月31日
- **補助額** 1店舗あたり下限5万円~上限10万円

問い合わせ先/第2弾「がんばるお店・お宿応援事業」事務局(兵庫県中小企業団体中央会) ☎078-595-9008

中小企業の皆さんへ

ワーク・ライフ・バランス助成金をご活用ください

ひょうご仕事と生活センターでは、仕事と育児や介護などの両立支援に取り組む中小企業の事業主の皆さんに助成金を支給しています。

※各助成金の申請には、「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」への登録が必要です

中小企業育児・介護等離職者雇用助成金

- 【対象】前職を結婚、配偶者の転勤、妊娠、出産、育児、介護で離職した人を、下記の形態で雇用した事業主
※対象労働者は申請に係る事業所加入の社会保険被保険者に限る
- 【支給額】正社員：50万円 短時間勤務正社員：40万円 非正社員（フルタイム勤務）：20万円
非正社員（フルタイム勤務以外）：10万円

中小企業育児・介護代替要員確保支援助成金

- 【対象】従業員の育児・介護休業、または、育児・介護による短時間勤務に対して代替要員を新たに雇用した事業主
- 【支給額】**■休業コース**
育児・介護休業期間中、代替要員に支給した基本給の2分の1
- 短時間勤務コース**
育児・介護による短時間勤務中、代替要員に支給した基本給のうち、短縮した時間相当の2分の1

※月額上限10万円、総額上限100万円。ただし、育児短時間勤務の場合、月額上限2万5千円、小学3年生まで対象

仕事と生活の調和推進環境整備支援助成金

- 【対象】女性や高齢者などの職域拡大や、多様な働き方を導入するために職場環境整備を行った事業主
- 【支給額】対象経費の2分の1以内（上限200万円）
- 【対象事例】**■職域拡大など多様な人材活用**
⇒専用トイレや更衣室、シャワー室、休憩室の整備など
- 多様な働き方**
⇒事業所内託児スペースの整備
- 新たなワークスタイルの導入**
⇒在宅勤務システムに必要な機器の整備

ひょうご仕事と生活センターのホームページから、各種申請様式や申請書の書き方などについて詳しく説明している「助成金の手引き」がダウンロードできます。

ひょうご仕事と生活センター 助成金

検索

センターの主な事業

ワンストップ相談

ワーク・ライフ・バランスに関する相談や質問を受け付けています。
(面談、電話、メールで対応)

コーディネーター、コンサルタントの派遣

コーディネーターやコンサルタントが企業を訪問し、ワーク・ライフ・バランス推進に必要な専門家の派遣など最適なサポートを提案します。

研修・実践支援の実施

相談に応じて、ワーク・ライフ・バランス実現に向けた研修や担当者への実践的なアドバイスを実施します。

ICT技術相談

テレワーク導入などに向けたインフラの構築や運用について、相談に応じます。

中小企業従業員意識調査

従業員の今の職場についての意識をアンケートにより数値化し、優先的に取り組むべき課題などを把握することができます。

企業助成

ワーク・ライフ・バランスの推進を支援するための各種助成金を用意しています。

公益財団法人 兵庫県勤労福祉協会 ひょうご仕事と生活センター

〒650-0011 神戸市中央区下山手通6-3-28 兵庫県中央労働センター1階

TEL 078-381-5277 FAX 078-381-5288 E-mail info@hyogo-wlb.jp

開館 月～金曜 9:00～17:00(祝休日、年末・年始を除く)

阪神事務所

〒660-0881 尼崎市昭和通2-6-68

尼崎市中小企業センタービル6階

TEL 06-6481-1888

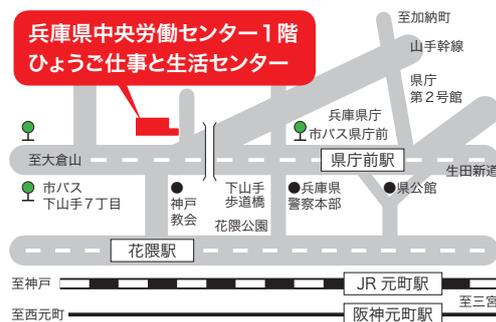
姫路事務所

〒670-0947 姫路市北条1-98

兵庫県立姫路労働会館1階

TEL 079-288-2603

携帯、
タブレットから
アクセス
できます。



- 神戸市営地下鉄「県庁前」駅西出口③から西へ徒歩7分
- 神戸高速鉄道「花隈」駅東口から北へ徒歩9分
- JR「元町」駅西口から北西へ徒歩12分
- 阪神電鉄「元町」駅西口から北西へ徒歩14分

<https://www.hyogo-wlb.jp/>

ひょうご仕事と生活センター

検索